

平成26年度学校評価報告書(自己評価)

<p>本年度の重点目標</p> <p>○〔重点目標1〕 基本的生活習慣、学習習慣を定着させ、学力の定着、学力の向上を目指す。</p> <p>○〔重点目標2〕 特別支援教育を推進し、障がいについての理解を深めるなど、心の育ちの推進を図る教育を充実する。</p> <p>○〔重点目標3〕 「食」の大切さを理解させ、健やかな体を育成する。</p>
--

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点目標1	学校は「集団で学ぶ」場であることを子ども・保護者に理解させ、そのためのルールを確立する。手だて: 学習用具等をそろえる。整理整頓する。学習規律の徹底。交流活動の充実。	2人の少人数指導担当教員が中心となって、実際の学習場面で学習規律の徹底を図った。担任は「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、児童だけでなく保護者に対しても「学ぶ」ことについて継続指導を行った。管理職は学校だより、入学式、PTA総会、PTA理事会等で啓発を続けた。	B	【成果】学習規律はかなり徹底した。「集団で学ぶ」ために、用具を忘れない、ルールを守るだけでなく、交流も学年の発達の段階に応じて円滑にできるようになっている。 【改善方策】学年が上がるに連れて、学力の定着(理解度)の個人差が激しい。少人数指導の充実が求められる。家庭の理解も差が激しい。啓発を続ける。
	学力向上プランに沿い、「言葉の力」の育成に向けて、言語活動を充実させる。主題研究の国語科だけではなくすべての教科等において行う。手だて: 振り返り活動の習慣化(話す・聞く・書く・読む)	昨年度から主題研究のテーマを国語科にし、「書くこと」に焦点を当てた。「書くこと」についての学年も「構成」に着目して取り組んだ。他教科等においても、終わりの5分間に振り返りを行わせ、そこで、発言させたり書かせたりするなど「表現」するようになった。	B	【成果】「書くこと」がかなり習慣化してきていると思われる。「終わり」5分間の振り返り活動は定着してきた。自己評価だけでなく、友達のよいところ等も発言させたり書かせたりしている。このことが学習意欲の向上につながっている。 【改善方策】めあて→まどめに結び付く「振り返り」になるように意図的な指導・支援を行う。
	学力向上プランに沿い、読書活動を推進させ、言葉の力の向上につながる読書習慣の定着を図る。手だて: 学校図書館の常時開館、ブックヘルパーの活用、10分間読書等の一層の推進、「子ども読書の日」や読書週間の取組における創意工夫。読書ボランティアによる読み聞かせやブックトーク等の充実。「学校図書館」の計画的な利用。読書ノート(カード)の活用。	目的をもって学校図書館を利用する学級が増えた。国語科だけでなく社会科、総合的な学習の時間等々、利用する際の教科等にも広がりがあった。本年度は学校図書館司書の訪問は1回しかなかったが、ブックヘルパーや児童の図書委員が利用率を上げようと環境整備にも取り組んだ。	B	【成果】読書活動の幅も選書の幅も豊かになった。10分間読書だけでなく、時間があれば「本」を手にする姿をよく見るようになった。国語辞典、漢字辞典の活用も増えた。これらのことで「語彙」の拡大につながった。 【改善方策】「図書の時間」として自由読書をしている場合がある。目的的な活用スタイルを定着させる。
重点目標2	「一人一人を大切に」という信念のもと、特別支援教育の充実を図る。手だて: 職員研修の実施。「明日への伝言板」を活用した障がい者理解についての全校一斉指導。巡回相談等の特別支援教育相談セッション。	指導主事を要請して研修を実施したり、巡回相談及び教育相談を受けるよう個別に働きかけたりして、児童の教育的ニーズに応じる指導・支援の在り方の研修や保護者の理解と協力を得るようになった。特別支援教育相談センターとは、様々な関わり方で、常に指導・支援いただいている。	B	【成果】巡回相談や教育相談を経て就学相談を受ける保護者が複数いた。本校における特別支援学級の開級につながった。これに関して指導主事に研修していただき、実践の方向性が明らかになった。 【改善方策】今後ますます、児童、保護者、地域の障がいに対する理解が求められる。丁寧な説明していく。
	「穴生小学校6つの花」を咲かせていくことを徹底する。あいさつ・安全・元気(健康)・仲よし(仲間)・がんばり(学習意欲)・そうじ手だて: 6つの花を教室等に掲示。視覚的にも声かけでも継続指導する。	「あいさつ」については、各学級で「あいさつの花」の掲示物等を作成。児童の自己評価させた。これで、児童が意識して「あいさつ」に取り組むことができた。朝の会、帰りの会で担任による声かけを継続した。	B	【成果】「あいさつ」については地域の方から「大きな声でよくあいさつしている。」とのコメントをいただいている。児童も「あいさつ」に対する意識を高めている。 【改善方策】高学年より低学年児童の方が、しっかりあいさつしているのが現状である。高学年児童にあいさつの「お手本」ができるよう、高学年児童への指導・支援が必要。
	確かな人権感覚を育み、人権意識の高揚を図る人権教育を推進する。手だて: いじめ問題解決に児童に主体的に関わらせる。職員研修の実施。学習参観をはじめとした保護者への啓発。	「いじめ防止サミット」に向けての児童の企画委員会の取組は、様々な形で継続実施した。校内でポスターを作成したり企画委員が紙芝居や寸劇などで呼びかけたりした。サミットの様子を全校児童の前で参加児童が報告。その後も放送を継続した。	B	【成果】児童の立場から「いじめ防止」に対して取り組むように支援したことは、企画委員の児童にとっても他の児童にとっても親近感及び緊張感があり、「いじめ防止」に主体的に取り組むことにつながった。学習参観も保護者の関心を深める要因になった。 【改善方策】携帯電話やスマートフォン等SNSによる「いじめ防止」については特化して保護者への啓発や指導を強化していく。

重点 目標 3	「子どものやる気を育む」視点で「食」への意識を高める。「子どもの命を守る」視点で食物アレルギー給食等にきめ細やかに対応する。手だて：養護教諭との連携。学校栄養職員との連携。給食調理室との連携。	養護教諭が窓口となり、保護者への連絡や給食調理室との連携を行っているが、管理職及び担任だけでなく、いつでも誰でも該当児童のいる学級に補欠に入ることができる体制づくりを行った。エビペンについての研修をしたり連絡方法を確認した。	B	【成果】教職員全員で「子どものやる気を育てる」「子どもの命を守る」という意識もち、食べることを疎かにしないこと、食物アレルギー対応給食に真摯に対応することができた。子どもはしっかり食べるようになっている。 【改善方策】「一度したから。」ではなく、毎年度定期的に食物アレルギー対応給食の職員研修を行う必要がある。
	体力向上プランに沿い、健康で安全な活力ある生活を送るための基礎を培う「健康教育」を推進する。手だて：遅刻をしないように指導・支援したり保護者への啓発を行う。養護教諭との連携推進。	養護教諭が来室した児童に個別に「心身の健康」について話すだけでなく、保健だよりや保健室の掲示板を活用して「心と体の健康」を児童に考えさせた。学校だより及びPTA理事会等で、「早寝・早起き・朝ごはん」についてだけでなく、遅刻をしないように啓発を続けた。	A	【成果】保面室前の掲示物については、養護教諭のアイデアで、教職員や保護者も意見が書き加えられるように工夫されていた。大人の考えがあることに児童は関心を高めることができた。参画型の掲示は効果的だった。 【改善方策】養護教諭の保健室での取組が各教室で位置付くように、年間計画を整える。持久走への取組は課題である。
	主体的に行動する力を育む防災教育を推進する。手だて：「災害時連絡カード」の活用で保護者の意識を高める。災害時を想定した防災教育の実施と集団下校の訓練を行う。	土曜日授業の際、自然災害を想定した集団下校を実施。保護者の児童受け取りの方法、残った児童の集団下校と教師引率等について、具体的に訓練を実施した。それだけでなく計画的に5回の避難訓練を実施した。	B	【成果】土曜日授業の際の保護者の児童受け取りは、災害時を想定すると意義はあった。受け取りの保護者はかなりいたが、整然と並んで子どもを待っていた。 【改善方策】土曜日授業において時間設定、場の工夫をしないと負担になる子どももいた。「災害時連絡カード」については更なる確認と点検が必要で

※評価(例) A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

